

松蔭 校長室だより

2019年 7月 4日 発行

—校長から保護者の皆さまへのメッセージです—

松蔭中学校・高等学校
校長 浅井宣光

「あなたの心を諭（さと）し言葉に、耳を知識の言葉に傾けよ。」（箴言 23:12 2019年度松蔭中学校1年標語）

「ほめ育」に思うこと

赤ちゃんがウンチをすると、オムツを替えてもらいながら「たくさん出たね」、「えらいね」とほめてもらいます。「すっきりしたね」、「気持ちいいね」の言葉とともに、たっぷりの愛情が赤ちゃんの心に届きます。安心と喜びを育む言葉の大切さを、私たちは知っています。先日、「ほめ育」という言葉を初めて知りました。「ほめて育てる」ことが勧められ、会社でも上司が部下をほめて導くことが推奨されているようです。ある教育評論家が、今の世の中は「ほめ育」ブームだと言っていました。スーパーのお菓子コーナーで「あれが欲しい」、「これ買って」と駄々をこねる子供がいました。するとお母さんは、丁寧な言葉遣いで諭すように話しかけていました。電車内で大きな声ではしゃぐ子供に向かって、「静かにできるといいね」と言葉少なに注意するお父さんの姿も見かけたことがあります。このような場面が増えているように感じますが、いかがでしょうか。一方で、幼い頃からほめ言葉だけを聞いて育つと、親からの評価を次々と求めるようになる。すると、何事でも他者との比較や勝ち負けが価値尺度となって行動するようになる、という見方もあるようです。

6月上旬、今年最初の「保護者おしゃべり会」を開催しました。テーマは「褒（ほ）めるは、認める」で、8名のお母様方が参加されました。担当の佐々木聡先生（国語科）が、テーマについて次のように話しました。子供をほめる内容は「結果」、「能力」、「努力」がある。例えばテストの得点が良かったという「結果」や、「やればできるじゃない」と「能力」をほめるのではなく、「頑張ったんだね」という「努力」をほめるポイントにすると、子供のありのままの姿を認めることになる。たとえ、結果が悪くなかったり、力が不十分であったりしてもほめることができる。その後の参加者のフリートークを聞きながら、私は、しばらく前にテレビで見たピアノの公開レッスン番組を思い出していました。米国在住の中国出身ピアニスト郎朗（ランラン）さんが、日本の小学生を指導しながら、「エリーゼのために」やツェルニー練習曲など、レッスンの定番曲を弾いていました。彼は、大人がいつも子供を”encourage”することが大切だ、とコメントしていました。この単語は、英和辞典では「勇気づける」、「励ます」、「希望を与える」などと訳されていますが、通訳の方がすかさず「ほめる」と訳したのです。ほめることは、努力を認めて勇気づけること。おしゃべり会のテーマが、一本線でピンとつながったような気持ちになりました。

日々の生活のなかで、子供を勇気づけて認めるために、どのような言葉でほめようかと、四六時中、頭をフル回転させることは、かえってストレスになりそうですが、子供が発する思いがけない

言葉には、常に冷静に対応したいものです。親の願いとは正反対の行動をした時には、感情的な言葉をとっさに返さないよう心がけたいと思います。余裕があれば、子供が受け止めることのできる言葉を手探りしつつ、オムツ替えをしながら赤ちゃんに語りかけるお父さん、お母さんの姿を思い浮かべたいものです。子供と向き合う私たちの悩みは尽きませんが、親にとっての子供と、教師にとっての生徒は同じ一人です。手をたずさえれば大丈夫です。いつもあなたを大切に思っていますよ、というメッセージを送り続けたいと思います。

夏休みの予定から

今夏も猛暑が予想されています。校内外で、補習、クラブ活動や宿泊行事など様々なプログラムを予定していますが、熱中症には十分に注意しながら実施したいと思います。終業式後には、各クラブの部長等代表者と顧問教員を対象に、熱中症予防と対策の講習会を体育館ダンスルームで実施します。また、昨年同様に「暑さ指数=WGBT（湿球黒球温度 Wet Bulb Globe Temperature）温度」を職員室前に掲示し、場合によっては活動休止の措置をとります。また、校内の数か所にミストシャワーを設置します。ご家庭でも、十分に睡眠時間を取ることや食生活に気を付けるようお願いいたします。体調がすぐれない場合には、早めに対処してください。夏休みには、最初と最後の1週間を補習期間として設定していますが、今年は、通常の進学補習や基礎学力の定着を目指す補習に加え、いくつかのユニークな講座を開講する予定です。中1～2対象の「俳句入門」や「オンライン英会話体験」、高1対象の「映画で考える世界史」など、これまでにない講座があります。

8月上旬には、中1の山のキャンプをハチ高原で実施するほか、8月6日の広島原爆の日の平和礼拝に11名が参加します。また、「パスポートのいない英国」がキャッチフレーズの福島県”British Hills”での2泊3日の英語研修に中2生16名が参加します。海外異文化研修では、ニュージーランドのセントピーターズ校と韓国の信明高校・聖明女子中学校に、29名の中3～高2生徒を派遣します。3校ともクリスチャンスクールで、松蔭と姉妹校の提携を結んでいます。特に1936年創立のセントピーターズ校は、英国人の手で創設されました。チャペルを中心とするキャンパスには、本校同様に聖公会（英国国教会）キリスト教主義の空気が漂います。

8月25日には、高校生の環境問題についてのプロジェクト型学習、Blue Earth Projectの全国活動報告会を開催します。2006年から始まったこの取り組みは、現在では高校全体の取り組みとなり、全国の高校生が参加するようになりました。今回、北海道から沖縄まで十数校の女子高生たちが、それぞれの活動を報告し交流を深めます。お気軽にご見学ください。参加申し込みは、学校ホームページのBlue Earth Projectのバナーからできるようになっています。（裏面に続く）



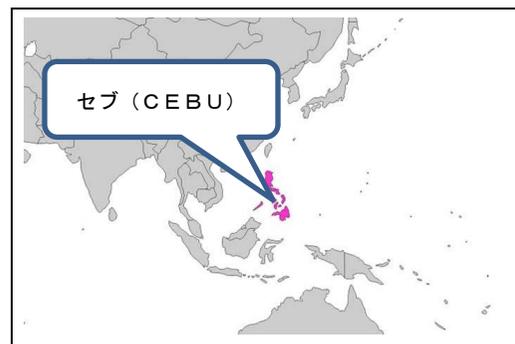
<オンライン英会話>



<全国報告会のチラシ（学校HPより）>

冬休みの海外研修 「英語を通して世界を知る」フィリピン・セブ島研修

世界史の教科書を開くと、16世紀の大航海時代、初めて世界一周を成し遂げたマゼランの船団についての記述があります。彼はスペイン王の援助を受け、胡椒（こしょう）、ナツメグ、グローブなどの産地モルッカ諸島、（現インドネシア領マルク諸島）への西回り航路の探索調査を行いました。当時のヨーロッパでは香辛料の需要が高く、各国が東南アジアへの進出を図っていました。乗組員の記録によると、4ヶ月にも及ぶ太平洋横断の航海では、食糧と飲料水不足で飢餓状態に陥り、ようやくたどり着いたのがセブ島でした。その後、一帯の島々はスペインの植民地となり、国王フェリペ2世の名にちなんでフィリピンと名付けられました。リゾート地として知られるセブ島ですが、近年では英語研修のメッカとなっています。日本との時差は1時間。関空からは5時間弱のフライトです。マンツーマンレッスンが中心の英語研修と、現地の子供たちと触れ合うボランティア活動など社会体験を組み合わせたプログラムを下記のように計画しています。研修後には、現地で得た気付きや学びをその後の行動へとつなげることも予定しており、これまでの海外研修にはない取り組みとなります。なお、冬休みには、信州戸隠のスキーキャンプも計画しています。



名称：セブ島研修プログラム

期間：2019年12月22日（日）～12月29日（日）

対象学年：中学3年生～高校3年生

募集人数：20名

*7月6日（土）「選択グレード説明会」（中3、高1、高2）」で紹介します。

*7月16日（火）16時 ICT 教室「希望者説明会」

昨年度の学校評価アンケートより

毎年3学期に生徒、保護者対象の学校評価アンケートを実施しています。2018年度アンケートの結果については、6月22日に開催された1学期PTA運営委員会に報告し、今後、ホームページに公表する予定ですが、自由記述でいただいたコメントも含めて、できることはすぐに改善したく考えています。この紙面では、いくつかの設問を取り上げるとともに、アンケートを受けて改善を図ったことについて報告します。設問に対して「そう思う」「ややそう思う」回答を、中高別に「肯定的評価」として合計しました。まず、保護者対象の設問です。

「子供を松蔭に入学させて良かった」 中学 89.3% 高校 92.3%

9割の保護者の方から肯定的評価をいただきました。しかしながら、不満足とする方が約1割おられること、さらに過年度結果と比較すると、学年によっては進級後に肯定的評価の割合が低下している場合があります。個々の生徒の学校生活のあり方を再確認しつつ、その要因を探り、改善したいと考えています。卒業を迎える時には、「この学校に入れてよかった」という思いを持っていただけるよう努めたいと思います。

次に生徒対象の設問から、3点を取り上げます。

「先生はやる気ができるような授業をしている」 中学 60.0% 高校 51.6%

「松蔭に入って英語力が身に付いた」 中学 54.0% 高校 59.0%

「学校の宿題以外に、ふだんから自主的に学習している」 中学 41.0% 高校 48.0%

授業については、新学習指導要領の改訂（2021年度中学一斉導入、2022年度高1から年次進行）においては「主体的」「対話的」「深い学び」がキーワードとなっています。基礎学力の定着をはかるとともに、授業内容、授業方法の研修を重ね、これらの課題に取り組みます。個々の生徒が「わかりやすい」と感じる授業づくりが目標です。英語力については、模擬試験や英検の結果を見ると、学校全体としては上向いていることがわかりますが、生徒自身の学習意欲をさらに高める工夫が必要です。自主的な学習の姿勢については、昨年度から実施している週6日制授業のコンセプトは「学校で自学自習の姿勢を身に付け、家庭学習につなげる」です。これは、各学年団ともに大きな課題ですが、「なぜ勉強するのか？」という問いに対する各自の答えが様々であってもよいと思います。心に何かしら芽生えたならば、学校の宿題も含めて、自主的な家庭学習の小さな積み重ねにつながります。学校のいろいろな場面に、生徒を伸ばす小さな工夫や仕掛けを数多く作ることが課題です。

自由記述では、ICT教育の充実を求める意見がありました。現高1、高2生徒はICTプラットフォームClassiを導入していますが、「一人一台のタブレット端末所持を」との要望がありました。これについては、2020年度中1、高1全員を対象にICTデバイスを個人所持とし、授業その他で活用する予定です。「子供をもっと英語好きにしてほしい」という意見もありました。「英語の松蔭」としては最優先で取り組みます。昨年度のEnglish Roomの開室や、英語ネイティブ教員を今年度から4名体制にしていることもその一環です。学校に電話をいただいた際の受信者の「名乗り」についても、出来るだけ対応するよう指示しているところです。登下校中の安全については、地震や豪雨、台風などの緊急時の対応を確実にを行うとともに、歩きスマホやイヤホンを抑える指導を今後も重ねます。なお、各クラスの電話による緊急連絡網を今年度も設けていますが、実際に利用する機会はほとんどなく、また個人情報の管理の問題もあり、来年度から廃止します。緊急メール連絡の「メルボコ」システムを利用して、より柔軟に発信できるようにします。

今年度の学校評価アンケートは、3学期に実施する予定ですが、ご意見やご要望等がございましたら、いつでも校長室までご連絡ください。

2018年度私学助成金

兵庫県経常費補助金など	316,967,600円	国庫補助金	648,000円
就学支援金	33,402,600円	神戸市助成金	2,551,120円

私学助成金として、公費が各私学に給付されています。本校の場合、学校全体の会計のうち、保護者の皆様からいただく校納金が約3分2、助成金および高等学校就学支援金が3分の1の割合となっています。「私学のために税金が拠出されることは適切ではない」という意見がありますが、私学も公教育を担っており、県内の私立高校52校、私立中学校37校が多数の生徒を預かっています。「私学は兵庫の宝」と言われることも多く、各校は、公立学校にはない特色ある教育サービスを県民の皆様を提供してきました。助成金は、前年度実績などが精査されて決まります。昨年度（2018年度）分の助成額が確定したとの通知を受けましたので、お知らせいたします。